

調査の結果

1 暮らし向き

問1 暮らし向き

お宅の暮らし向きは、昨年の今ごろに比べて良くなりましたか。それとも悪くなりましたか。次の中から一つ選んで番号を で囲んでください。

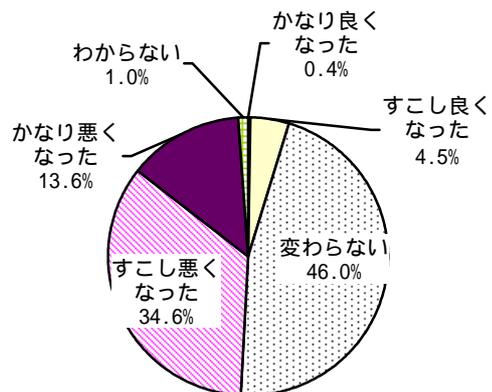
	(%)
1 かなり良くなった	0.4
2 すこし良くなった	4.5
3 変わらない	46.0
4 すこし悪くなった	34.6
5 かなり悪くなった	13.6
6 わからない	1.0

それは主にどういう理由によるものですか。次の中から一つ選んで番号を で囲んでください。

	(N = 382)	(%)
1 日常の生活費が増えた		24.9
2 収入が減った(働き手が減った)		41.1
3 営業不振、営業経費が増えた		7.9
4 教育費が増えた		9.2
5 特別事情による(結婚、出産、病気、災害など)		9.4
6 その他		7.3
7 わからない		0.3

暮らし向きが昨年に比べて「良くなった」と思うか、それとも「悪くなった」と思うかを聞いたところ、「悪くなった」(「すこし悪くなった」(34.6%)及び「かなり悪くなった」(13.6%))と答えた人の割合が48.2%、「変わらない」が46.0%を占めている。

また、「良くなった」(「かなり良くなった」(0.4%)及び「すこし良くなった」(4.5%))と答えた人の割合は4.9%であった。



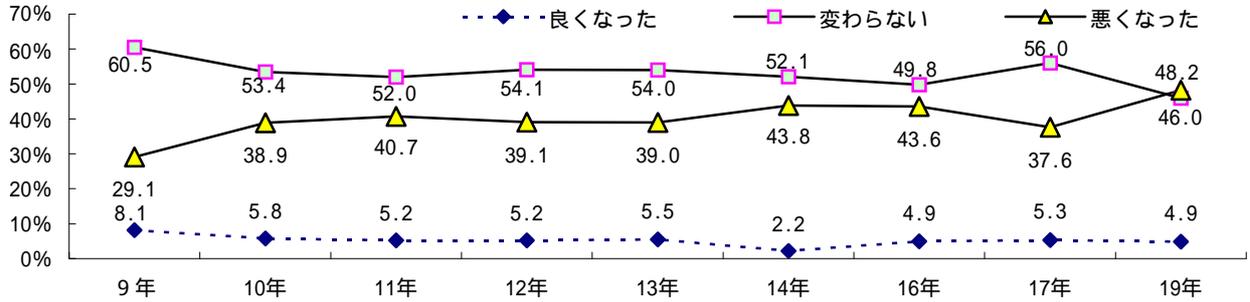
(悪くなった 48.2%)

(良くなった 4.9%)

【経年変化】

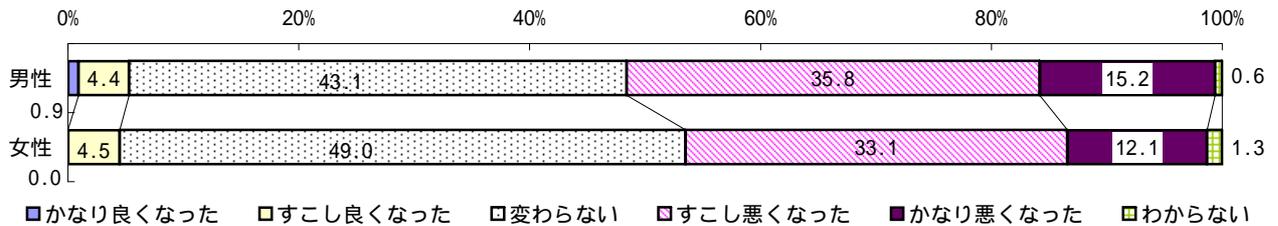
経年変化をみると、「悪くなった」と答えた人の割合は、平成14年調査をピークに減少傾向にあったが、再び増加に転じた。

また、平成17年調査（以下「前回調査」という。）と比較すると、「良くなった」と答えた人の割合は0.4ポイント減少し、「悪くなった」と答えた人の割合は10.6ポイント増加しており、「変わらない」と答えた人の割合は56.0%から10.0ポイント減少し、「悪くなった」と順位が入れ替わった。



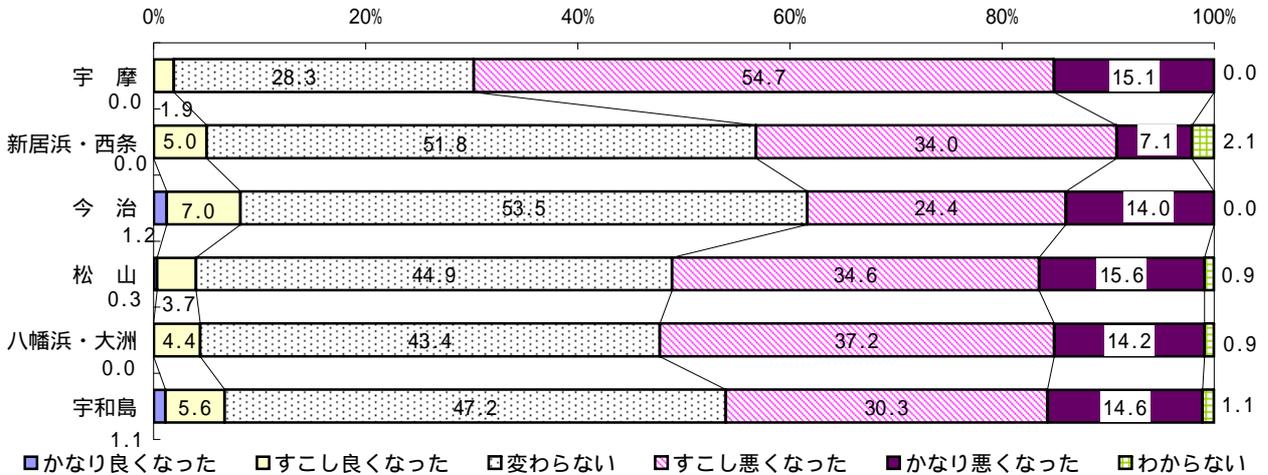
【性別】

性別にみると、「悪くなった」と答えた人の割合が男性51.0%、女性45.2%で男性のほうが割合が高い。一方、「良くなった」も男性のほうが高くなっている。



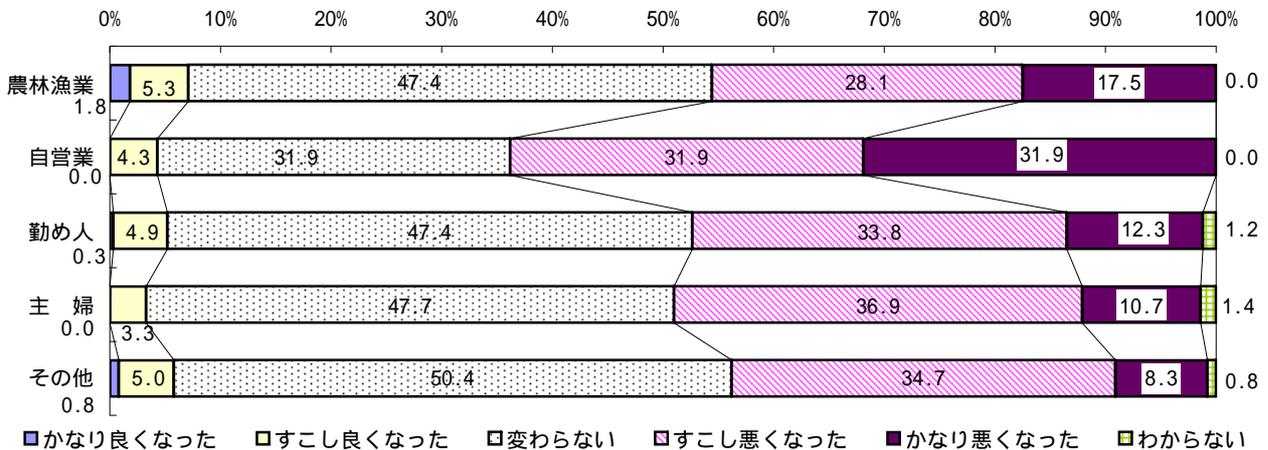
【生活圏域別】

生活圏域別にみると、宇摩、松山、八幡浜・大洲圏域では「悪くなった」と答えた人の割合が、新居浜・西条、今治、宇和島圏域では「変わらない」が最も多い。また、「良くなった」は今治圏域（8.2%）、「悪くなった」は宇摩圏域（69.8%）で、それぞれ他の圏域と比較して多くなっている。



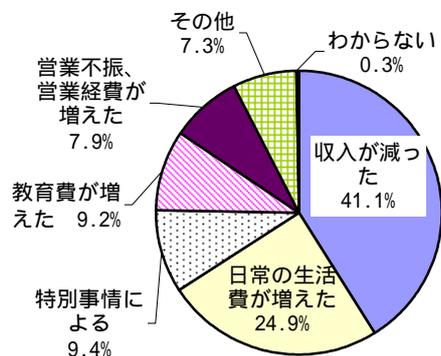
【職業別】

職業別にみると、農林漁業、勤め人、主婦、その他では「変わらない」と答えた人の割合が、自営業では「悪くなった」が最も多い。



《暮らし向きが悪くなった理由》

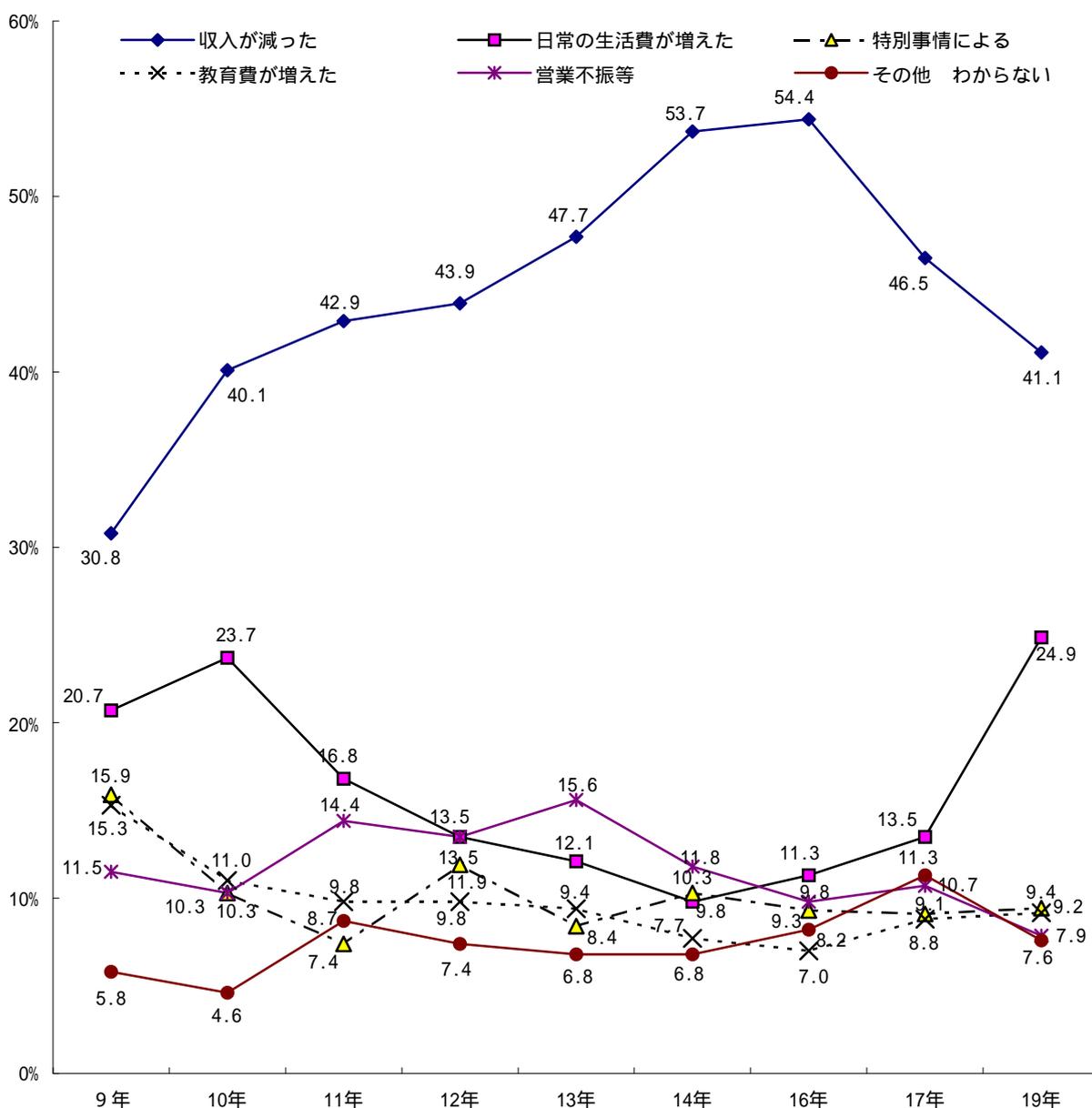
暮らし向きが「悪くなった」と答えた人に、その主な理由を聞いたところ、「収入が減った（働き手が減った）」（41.1%）が特に高く、以下「日常生活費が増えた」（24.9%）、「特別事情による（結婚、出産、病気、災害など）」（9.4%）、「教育費が増えた」（9.2%）「営業不振、営業経費が増えた」（7.9%）の順となっている。



【経年変化】

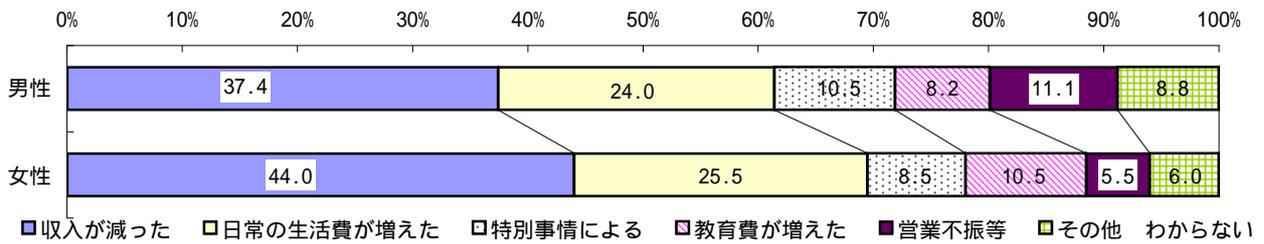
経年変化をみると、暮らし向きが悪くなった理由のうち「収入が減った（働き手が減った）」が第1位であるが、前々回調査時（平成16年）をピークに減少傾向に転じている。

また、「日常生活費が増えた」（24.9%は、前回調査と比較して11.4ポイントと大幅に増加し、「営業不振」は2.8ポイント減少した。



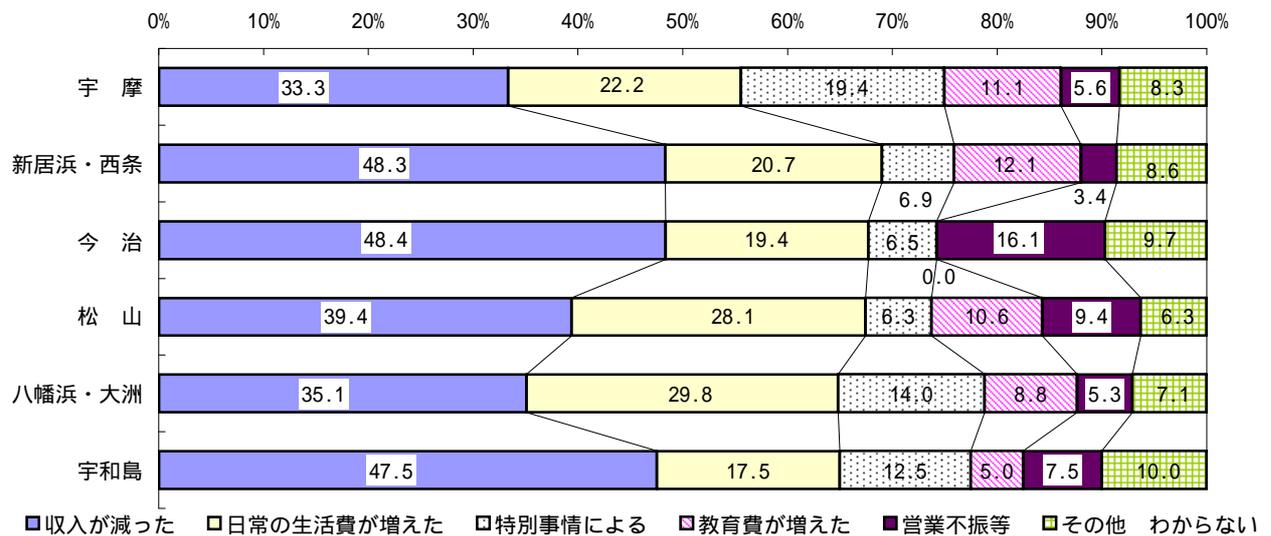
【性別】

性別にみると、いずれも「収入が減った」と答えた人の割合が最も高く、「収入が減った」、「日常の生活費が増えた」、「教育費が増えた」は女性で、「特別事情による」、「営業不振等」は男性でそれぞれ高くなっている。



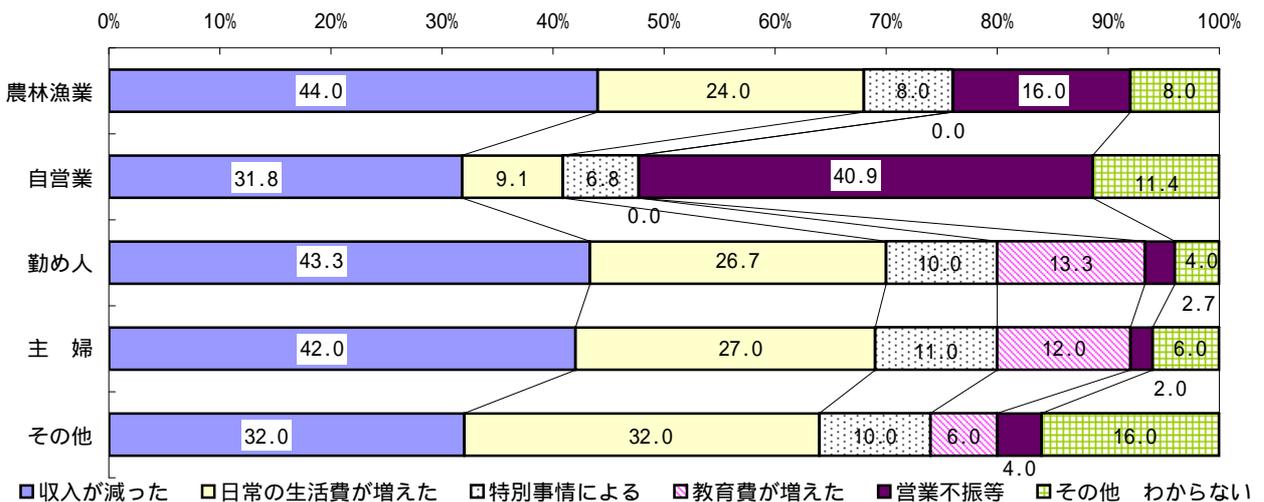
【生活圏域別】

生活圏域別にみると、「収入が減った」、「営業不振」と答えた人の割合は今治圏域で、「日常の生活費が増えた」は八幡浜・大洲圏域で、「教育費が増えた」は新居浜・西条圏域で最も高くなっている。



【職業別】

職業別にみると、「収入が減った」と答えた人の割合は農林漁業で、「日常の生活費が増えた」はその他で、「教育費が増えた」は勤め人で最も高く、「営業不振等」は自営業で特に高くなっている。



問2 暮らし向きの変化

お宅の暮らしの中で、次の各項目は、昨年の今ごろに比べ良くなりましたか。それとも悪くなりましたか。項目ごとにそれぞれ該当するもの一つずつ選んで番号を で囲んで下さい。

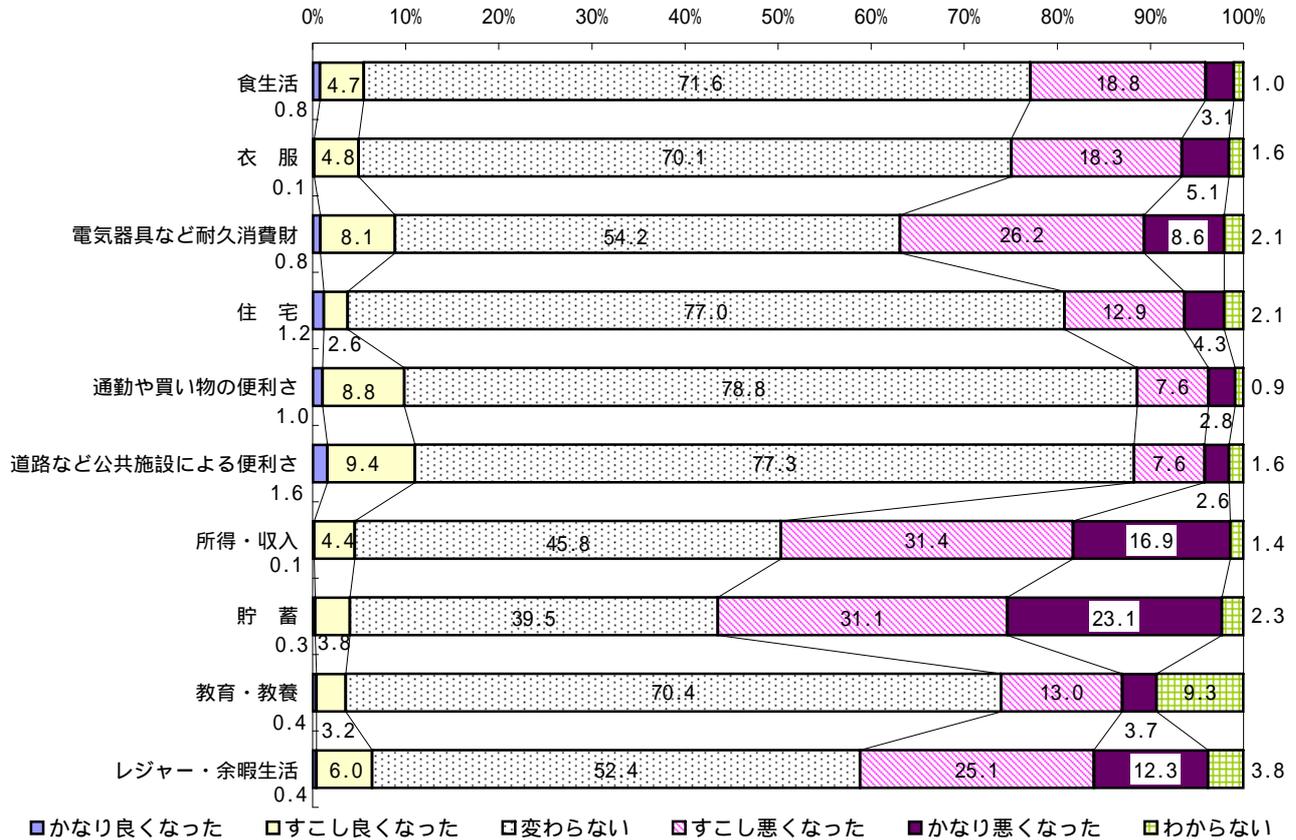
項 目	かなり良くなった	すこし良くなった	変わらない	すこし悪くなった	かなり悪くなった	わからない
	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
1 食生活	0.8	4.7	71.6	18.8	3.1	1.0
2 衣服	0.1	4.8	70.1	18.3	5.1	1.6
3 電気器具、家具、自動車 など耐久消費財	0.8	8.1	54.2	26.2	8.6	2.1
4 住宅	1.2	2.6	77.0	12.9	4.3	2.1
5 通勤や買い物の便利さ	1.0	8.8	78.8	7.6	2.8	0.9
6 道路など公共施設による便利さ	1.6	9.4	77.3	7.6	2.6	1.6
7 所得・収入	0.1	4.4	45.8	31.4	16.9	1.4
8 貯蓄	0.3	3.8	39.5	31.1	23.1	2.3
9 教育・教養	0.4	3.2	70.4	13.0	3.7	9.3
10 レジャー・余暇生活	0.4	6.0	52.4	25.1	12.3	3.8

(参考)	良くなった	変わらない	悪くなった
1 食生活	5.5	71.6	21.9
2 衣服	4.9	70.1	23.4
3 電気器具、家具、自動車 など耐久消費財	8.9	54.2	34.8
4 住宅	3.8	77.0	17.2
5 通勤や買い物の便利さ	9.8	78.8	10.4
6 道路など公共施設による便利さ	11.0	77.3	10.2
7 所得・収入	4.5	45.8	48.3
8 貯蓄	4.1	39.5	54.2
9 教育・教養	3.6	70.4	16.7
10 レジャー・余暇生活	6.4	52.4	37.4

暮らしの各面から10項目を取り上げ、昨年に比べて「良くなった」（「かなり良くなった」及び「すこし良くなった」）か、あるいは「悪くなった」（「すこし悪くなった」及び「かなり悪くなった」）かをそれぞれ聞いたところ、「貯蓄」の項目においては「悪くなった」（54.2%）と答えた人の割合が最も高くなっている。

「良くなった」と答えた人の割合が比較的高い項目としては「道路など公共施設による便利さ」（11.0%）、「通勤や買物の便利さ」（9.8%）などが挙げられる。

一方「悪くなった」と答えた人の割合は、「貯蓄」（54.2%）、「所得・収入」（48.3%）、「レジャー・余暇生活」（37.4%）の順で高くなっている。

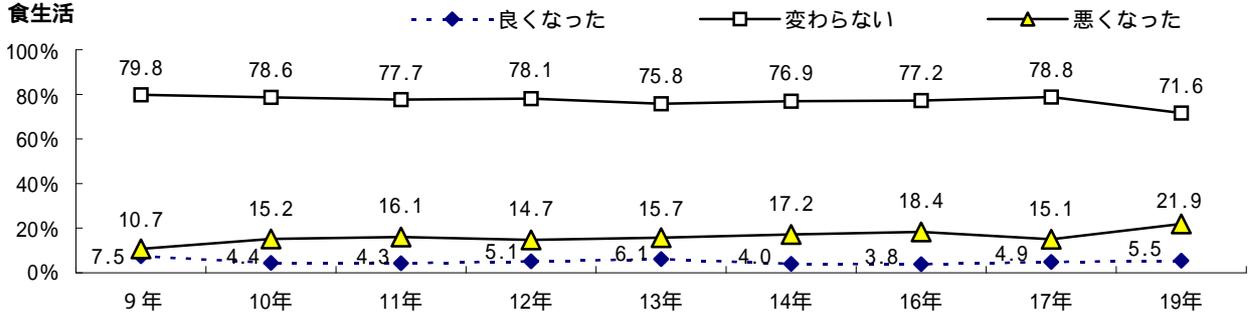


【経年変化】

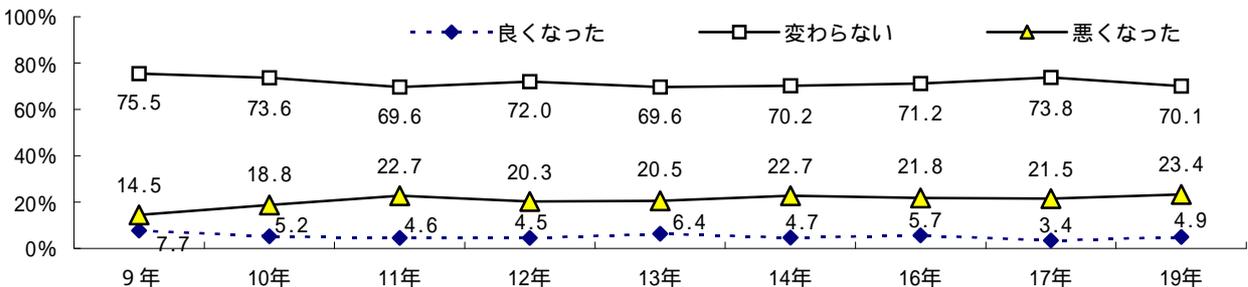
経年変化をみると、所得・収入及び貯蓄は「悪くなった」と答えた人の割合、それ以外の項目では「変わらない」が多くなっている。また、ほとんどの項目で、「良くなった」と答えた人の割合は減少にあり、一方「悪くなった」は増加傾向にある。

なお、前回調査と比較すると、住宅を除く全ての項目で「悪くなった」と答えた人の割合が増加しており、中でも「食生活」（6.8ポイント）、「レジャー・余暇生活」（5.2ポイント）、「所得・収入」（4.3ポイント）で比較的大幅に増加している。

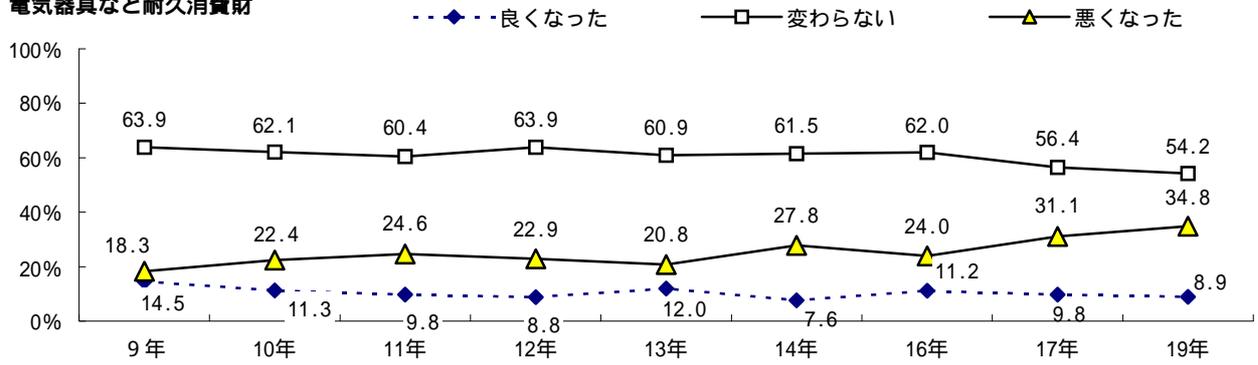
食生活



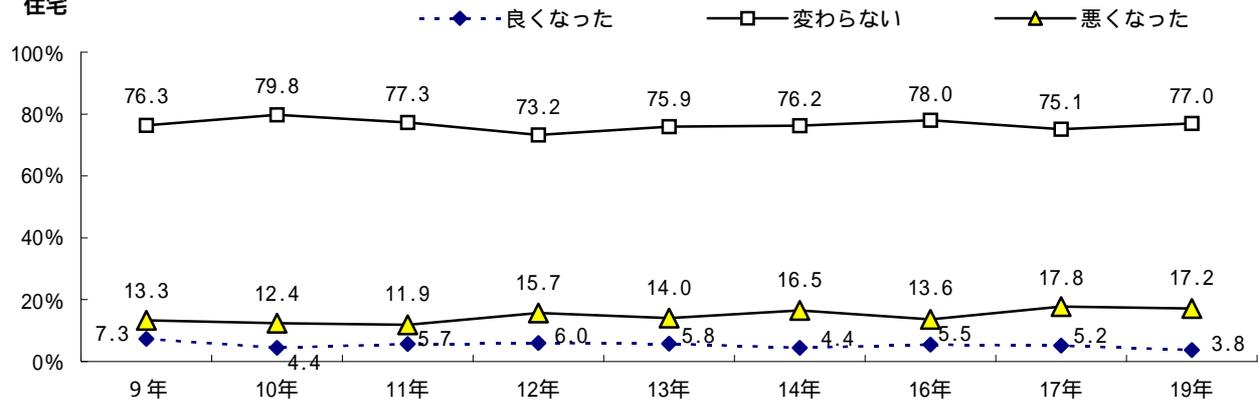
衣服



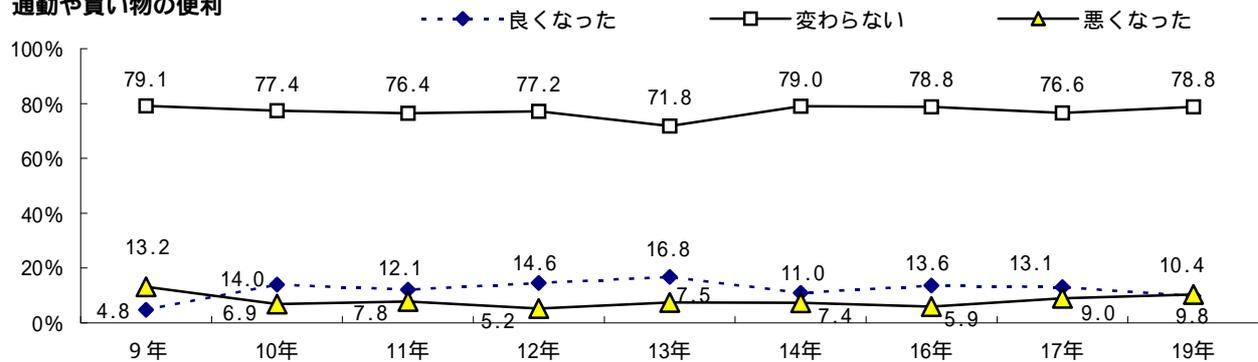
電気器具など耐久消費財



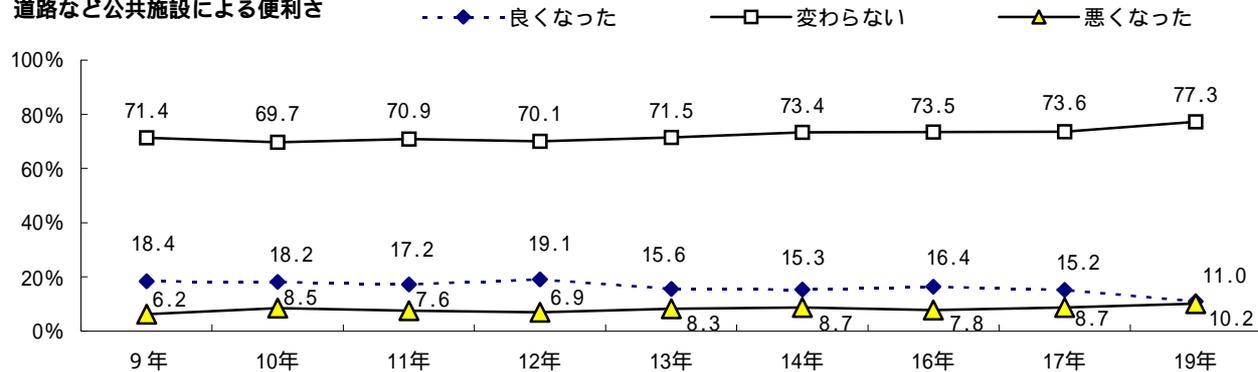
住宅



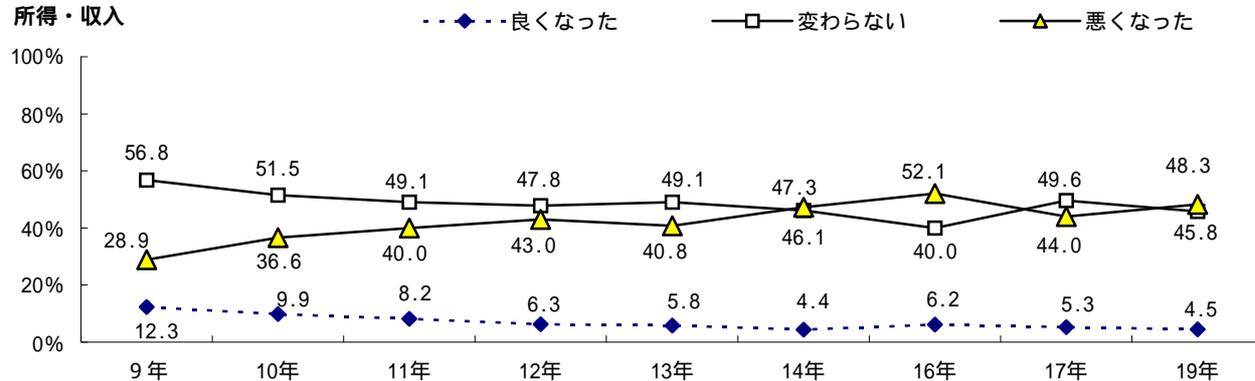
通勤や買い物の便利



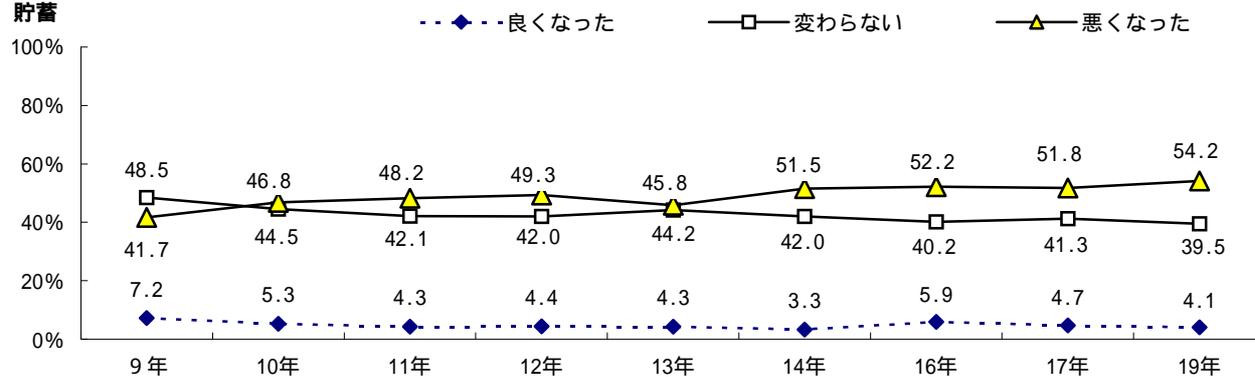
道路など公共施設による便利さ



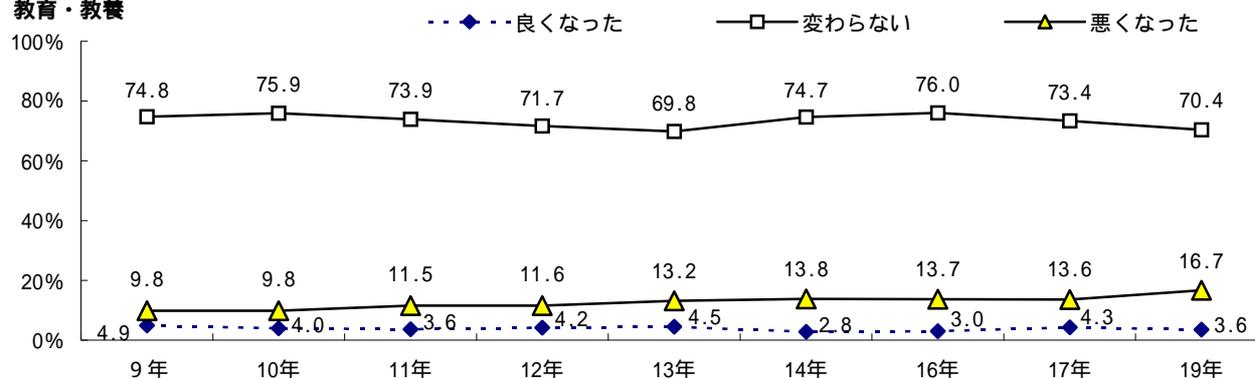
所得・収入



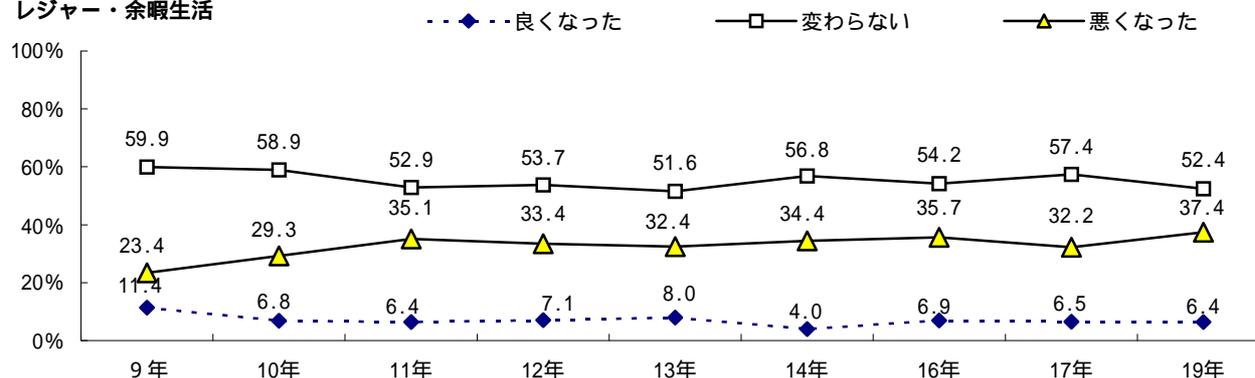
貯蓄



教育・教養



レジャー・余暇生活



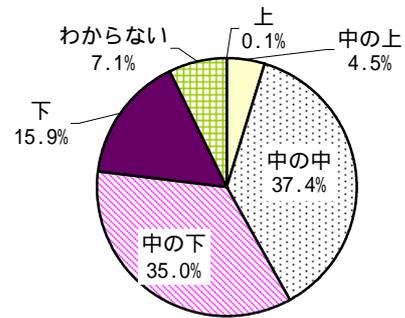
問3 暮らし向きの程度

お宅の暮らしの程度は、世間一般からみて、次のどれに入りますか。次の中から一つ選んで番号を で囲んでください。

	(%)
1 上	0.1
2 中の上	4.5
3 中の中	37.4
4 中の下	35.0
5 下	15.9
6 わからない	7.1

暮らし向きの程度を世間一般からみてどの程度だと思っているかを聞いたところ、「中の中」と答えた人の割合が37.4%と最も多く、「中の上」と答えた人(4.5%)及び「中の下」と答えた人(35.0%)と合わせて76.9%の人が中流意識を示している。

また、「上」と答えた人の割合は0.1%、「下」と答えた人の割合は15.9%であった。

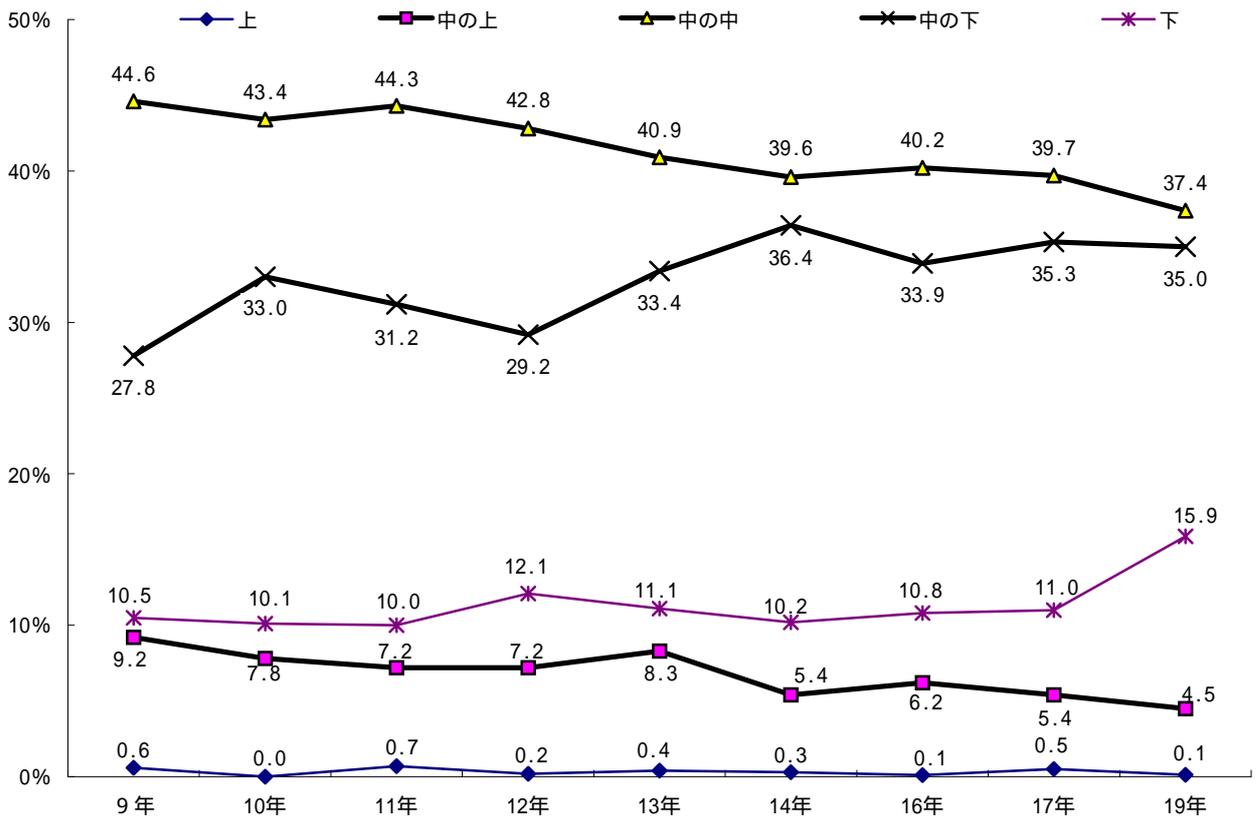


(中 76.9%)

【経年変化】

経年変化をみると、県民の中流意識は引き続き強く、いずれの調査年においても、8割程度の人が、自分の家庭の暮らし向きの程度を中程度だと評価しているが、今回調査では、「中」と答えた人の割合は、前回調査に比べて3.5ポイント減少した。

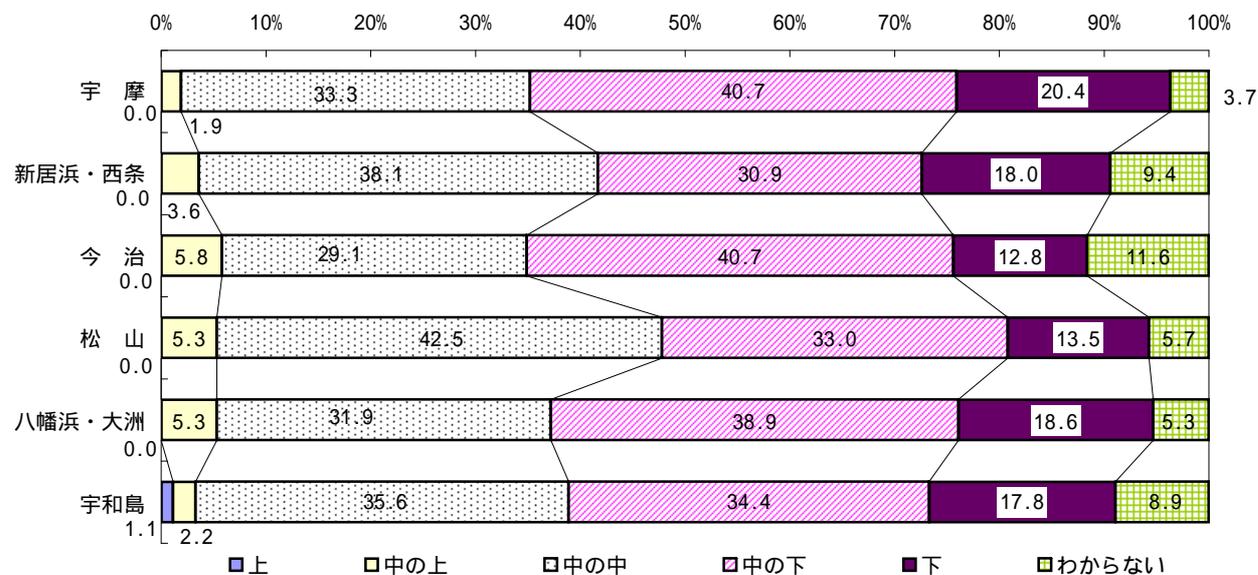
一方「下」は4.9ポイント増加している。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、「中の中」と答えた人の割合は新居浜・西条圏域、松山圏域、宇和島圏域で高く、「中の下」は宇摩圏域、今治圏域、八幡浜・大洲圏域で高くなっている。

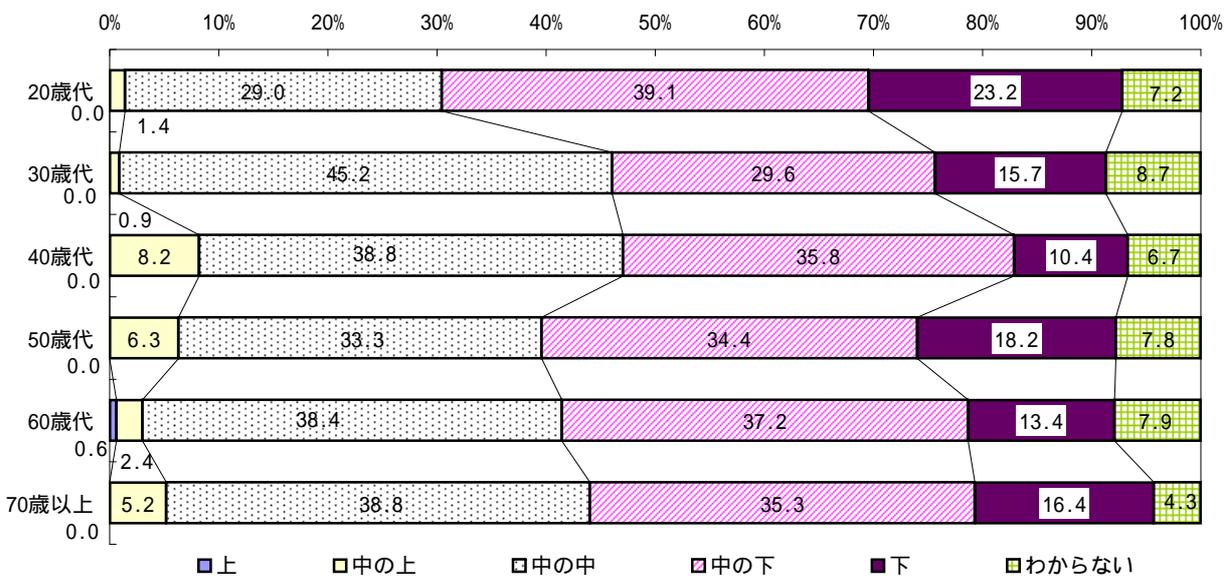
また、「中の中」と答えた人の割合は松山圏域(42.5%)で、「下」は、宇摩圏域(20.4%)で、それぞれ他の生活圏域と比べて高くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、20歳代及び50歳代では「中の下」と答えた人の割合が、その他の年代では「中の中」が最も多くなっている。

また、「中の上」と答えた人の割合は40歳代(8.2%)で、「中の中」は30歳代(45.2%)、「下」は20歳代(23.2%)で、他の年齢層と比較して高くなっている。



問4 資産の程度

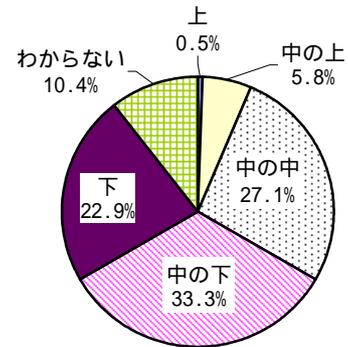
それでは、お宅の資産（土地、家屋、預貯金等）は、世間一般からみて、次のどれに入りますか。次の中から一つ選んで番号を で囲んでください。

(%)

1 上	0.5
2 中の上	5.8
3 中の中	27.1
4 中の下	33.3
5 下	22.9
6 わからない	10.4

資産（土地、家屋、預貯金等）の程度を世間一般からみてどの程度だと思っているかを聞いたところ、「中の下」（33.3%）又は「中の中」（27.1%）と答えた人の割合が特に高く、これに「中の上」（5.8%）を加えると、66.2%の人が中流意識を示している。

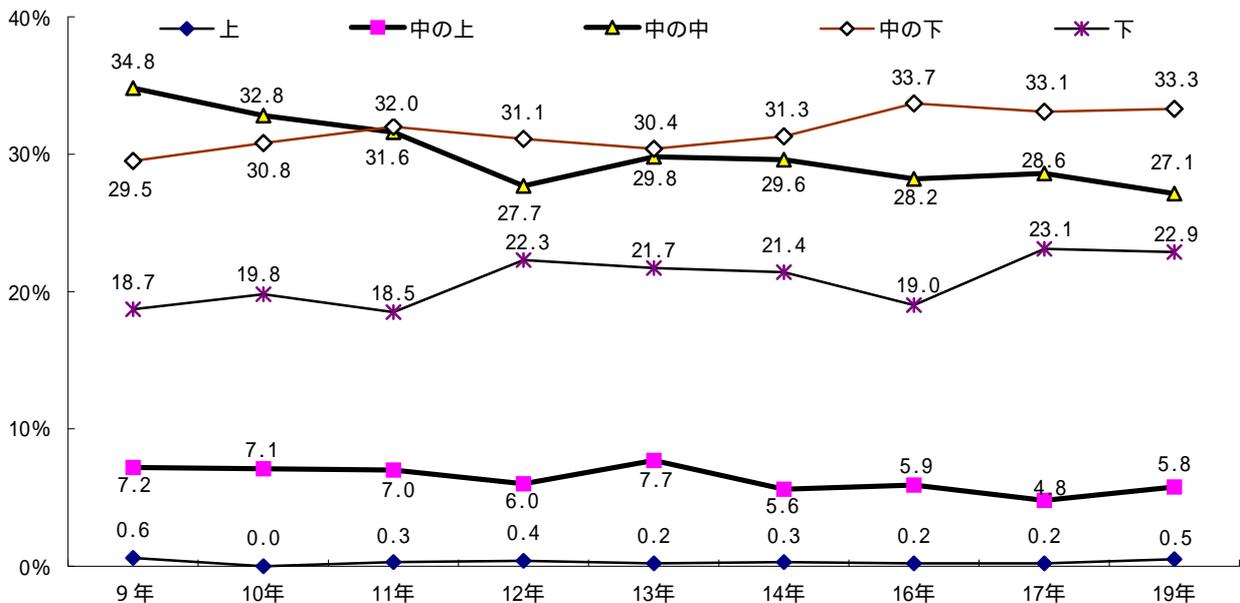
また、「上」と答えた人の割合は 0.5%、「下」と答えた人の割合は22.9%であった。



(中 66.2%)

【経年変化】

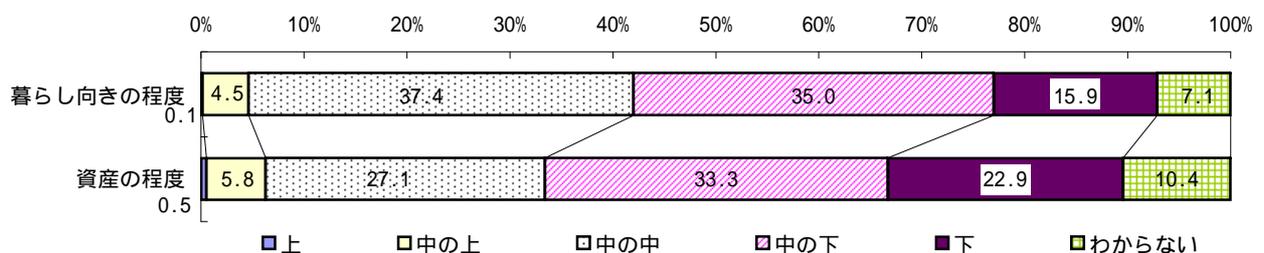
経年変化をみると、県民の中流意識は引き続き強いが、前回調査と比較すると、「中の上」は1.0ポイント、「上」は0.3ポイント増加し、「中の中」は1.5ポイント減少している。



【暮らし向きの程度と資産の程度】

暮らし向きの程度と資産の程度の分布状況を見ると、暮らし向きの程度は「中の中」と答えた人の割合が、資産の程度は「中の下」が多くなっている。

また、「中の中」と答えた人の割合は、暮らし向きの程度の方が10.3ポイント、「下」と答えた人の割合は、資産の程度の方が 7.0ポイント高くなっている。

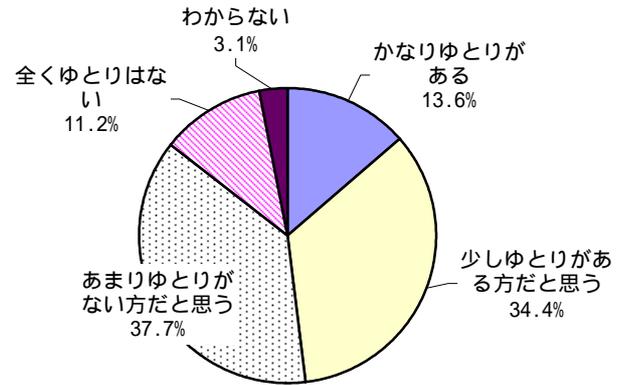


問5 生活のゆとり感

では、あなたは、普段の生活で時間的なゆとりがある方だと思いますか。それともない方だと思いますか。次の中から一つ選んで番号を で囲んでください。

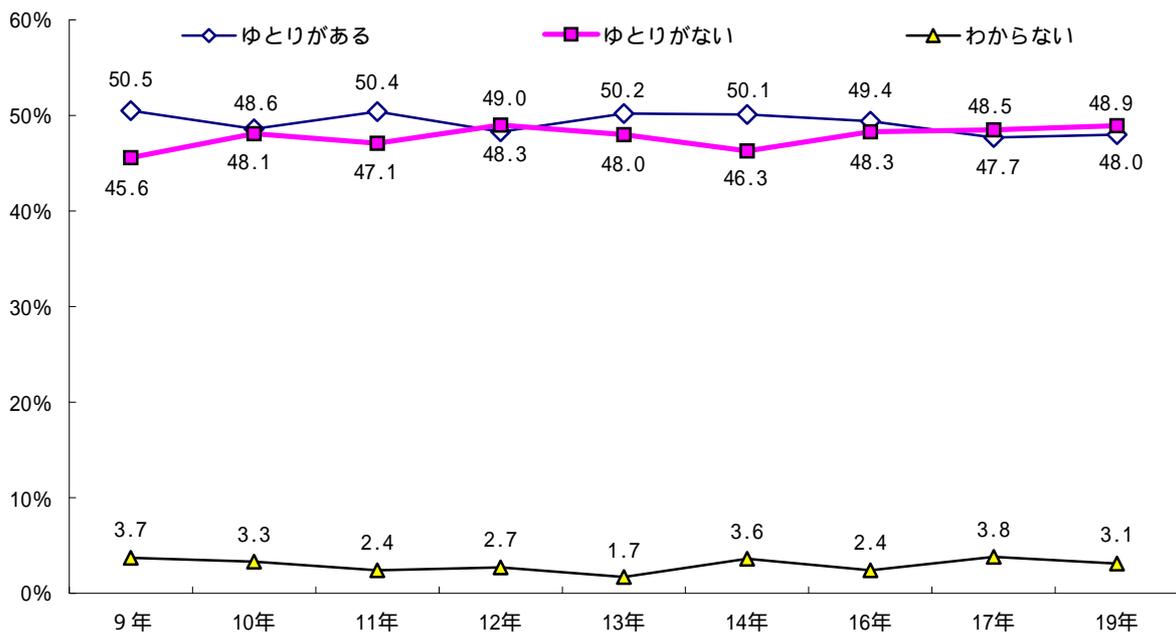
	(%)
1 かなりゆとりがある	13.6
2 少しゆとりがある方だと思う	34.4
3 あまりゆとりがない方だと思う	37.7
4 全くゆとりはない	11.2
5 わからない	3.1

普段の生活における時間的なゆとりの有無について聞いたところ、「ゆとりがある」と答えた人の割合は48.0%〔「かなりゆとりがある」(13.6%)、「少しゆとりがある方だと思う」(34.4%)〕で、一方「ゆとりがない」は48.9%〔(「あまりゆとりがない方だと思う」(37.7%)、「全くゆとりはない」(11.2%)〕であり、時間的なゆとりを感じていない人がやや多くなっている。



【経年変化】

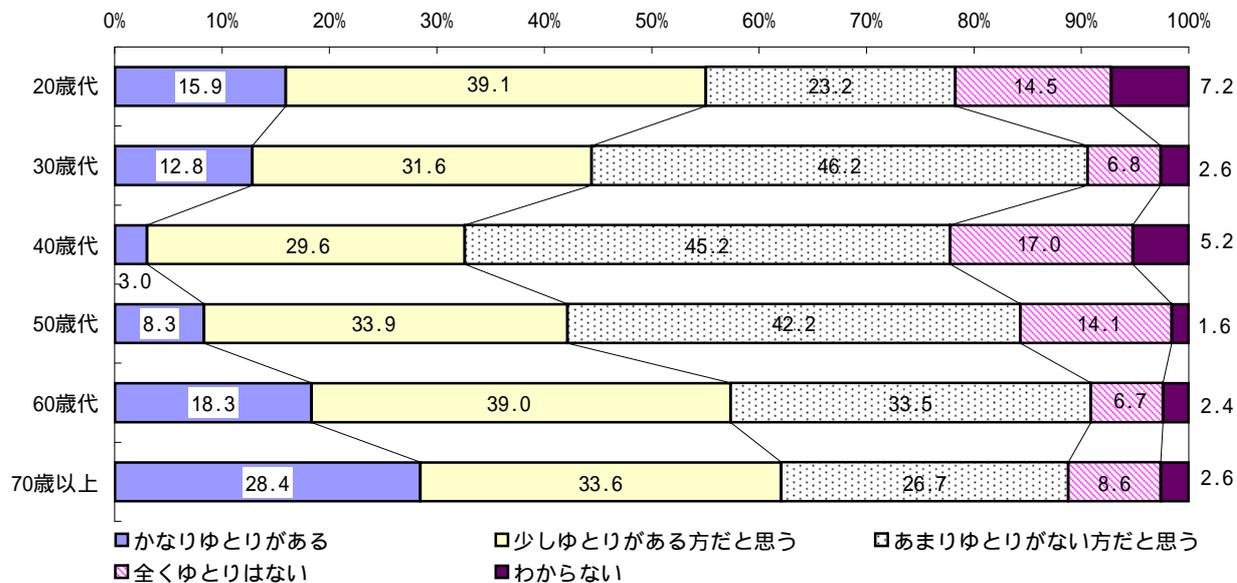
経年変化をみると、5年前の14年調査以降は、「ゆとりがある」は微減傾向、「ゆとりがない」は微増傾向にある。



【年齢別】

年齢別にみると、「ゆとりがある」と答えた人の割合は、70歳以上（62.0%）で最も高く、40歳代（32.6%）で最も低くなっている。

なお、「ゆとりがある」と答えた人の割合が「ゆとりがない」と答えた人の割合を上回っているのは、20歳代、60歳代及び70歳以上となっている。



【職業別】

職業別にみると、「ゆとりがある」と答えた人の割合は主婦（59.0%）、その他（65.6%）で特に高い。また、それ以外の職業では「ゆとりがない」と答えた人の割合が多く、自営業では72.1%と特に高くなっている。

